

越後よしかわ酒祭りでにぎわう杜氏の郷

地震の恐怖吹き飛ばし盛況。きき酒会には全国から226銘酒

13回目の越後よしかわ酒祭りが3日、杜氏の郷前広場、ゆったりりの郷で行われ、親子連れのお客さんなどで終日にぎわいました。

地震を意識しながら酒祭り参加

この日は朝から大きな揺れを伴った地震が何回も発生し、市役所木田庁舎や13区総合事務所では地震災害対策本部が設置されました。酒祭りについては、私は朝からの参加を予定していましたが、地震対策で総合事務所に詰め、市民のみなさんの安全確保のために動きまわりました。会場中央舞台で行われたセレモニーには防災服を着たまま出させていただきました。こんなことは初めてです。

私が会場についたのは午前11時半過ぎ。よさこいソーランなど当初予定していた写真撮影はかきませんでした。でも、楽しみにしていた吉川中学校吹奏楽部のみなさんの演奏にはなんとか間に合いました。同吹奏学部は3年生が

抜けて1、2年生だけになって、この日が初めての演奏だったようです。「となりのトトロ」など3曲を見事に演奏してくれました。順調な滑り出しでしたね。(吉中吹奏学部の「となりのトトロ」の演奏は私のホームページの動画集に掲載したのでごらんください)

東京吉川会も出店し盛り上げ

酒祭りのメインであるきき酒会には全国から226銘酒が出品。また、杜氏の郷前の会場には今回もたくさんさんのテントが並びました。

中央舞台正面にはいつもより広い休憩用テントが用意されました。これは高齢者などからとても喜ばれていました。

テント内での販売活動も活発でした。吉川区産のコメや野菜など農産物のほか、ワインやお酒などもたくさん出ました。また、吉川区自慢のそばやうどん等の販売も行われ、行列ができたところも。

今回、新たに販売活動を行ったのは区内では品和亭さん、区外からは東京吉川会のメンバーの皆さん(写真下)です。このうち東京吉川会はお菓子や東京スカイツリーのタオルなどの販売を行いました。



区内の各地域づくり(会議)は今回も頑張りました。このうち、泉谷地域づくりのテントは、竹を使った作品作りで話題になっている天林寺の橋爪宏さんや下小沢の「わんこ亭」も加わって一段と賑やかにになりました。

地元出身の歌手、三島みどりさんも祭りを盛り上げてくれました。歌もしゃべりもとてもよかったです。舞台前に敷かれたシート席、子どもと大人で満杯となった休憩用テントなどから三島さんに大きな拍手がおくられていました。



大きな揺れの連続に恐怖

中越沖地震以来の大きな地震が2日、3日と市内で連続して発生し、市役所は地震災害警戒対策本部を設置しました。

この地震で一番大きかったのは震度5弱。吉川区では最大で震度3でした。写真は同日発生した水道の漏水対策工事。3日14時頃、道之下で。

春よ来い 第二十三回 父の「計算」

先日のことです。わが家の庭に車を止めて降りた瞬間、とてもいい匂いがしたので庭木の方を見ると、薄黄色の花が開き始めていました。金木犀（きんもくせい）です。素敵な匂いを放つことによって、自らの存在を強烈にアピールしています。

わが家の庭は、二十数年前に家を建てた時には、甘柿、櫻、スモモの木があるくらいでした。そこへビワ、グミ、山茶花（さざんか）などの木を庭木として植えたのは父です。最初は、前に住んでいた畑の庭木を移したただけだったのですが、森林組合などから苗木を次々と買い、徐々に庭木を増やしていききました。いまでは二〇種ほどの庭木が所狭しと植えられています。

庭木はまったくと言ってよいほど手入れがしてありません。車が通る時や除雪のじやまになった枝を切るくらいで、枯れた枝もそのまんまです。果樹の剪定（せんでい）も父にまかせっぱなし、父が体調を崩してからというものには全然していません。

ところが、こうしたみじめな管理状態にもかかわらず、わが家の庭木たちは近くで暮す人たちやわが家を訪れる人たちを結構楽しませてくれています。

何よりも美しい花を咲かせます。春は桜、梅、ベニコブシ、ツツジが咲き、夏から秋にかけてには百日紅、ムクゲ、金木犀、山茶花と続きます。春一番に咲く梅は白、次に咲く桜はピンク。冬になって咲く赤い椿は雪が降っても簡単には散りません。わが家の庭木は春から冬まで一年中、途切れることなく様々な色の花を咲かせ、庭を賑やかにしてくれるのです。

庭木となつている果樹も大活躍です。今春こそ収穫量は少な目でしたが、例年、梅の木はたくさんの実をつけ、わが家で漬ける梅はこれで十分間に合います。続いてスモモ、小粒ながら甘味十分の果物です。私は子ども時代からスモモが好物で、食べ頃が近くなると、毎日のように観察してもぐタイムングを考えています。わが家のスモモは、ほぼ一年おきに豊作となります。豊作の時は家族だけでは食べきれず、友だちなどにお裾分けしています。

今年、わが家の庭で大量に収穫できたのは俵グミ。毎年、鮮やかな実をつけるところまでは見るのですが、食べ頃になると、あつという間になくなってしまっています。たぶんカラスの仕業だと思えます。ところが、今年は何があつたのか、カラスたちは近寄らず、毎日、収穫できました。こんなことは初めてでした。

庭木はどんどん大きくなります。咲く花も増え、つける実も多くなります。一番背が高くなったのはベニコブシです。数年前、父は私にこのベニコブシの花を写真に撮るよう求めてきました。それも花どきを迎えたときのものを。その時、父は笑顔いっぱい、満ち足りた表情でこう言ったのです。

「とちや、来てみる、きれいに咲いてるねか」

以来、私は、庭木に咲いた花はデジカメで撮り続けています。

わが家の庭はいま、金木犀が満開です。父が亡くなってから一年半。庭木の一つひとつが花を咲かせるたびに、「これはじいちゃん植えた木だ」と思いだします。

これまで、父が一生懸命庭木を育ててきたのは、「生きている時に自分自身が楽しみたい」ためだとばかり思っていました。でも、金木犀の花が朝日を浴びてキラキラと輝いているのを見て、ふと思ったのです。ひよっとすると、父は死んでからも「みんなから思いだしてもらおう」ことを計算していたのではないかと。

不適切処理含む修正不能な決算は認定できません

上越市議会 9月定例会は9月24日、51の議案すべてを可決、請願1件を不採択にして終了しました。日本共産党議員団は、このうち6議案に反対、45議案に賛成しました。



採決に先立って行われた討論では、日本共産党議員団の平良木哲也議員が登壇し、6議案に反対する理由をのべました。

した。

このうち、2009年度一般会計歳入歳出決算に関しては、まず、出納閉鎖後に明らかになった不適切な会計処理に言及、「発注したものができあがる前に代金を支払ってしまったという地方自治法に抵触するものや、別の費目で支出したというものなど約110件、約340万円にもものぼる。出納閉鎖後では不適切な処理を修正できないので、それだけでも不認定とすべきだ」と主張しました。

平良木議員はまた、「同決算には、病児保育事業の実施、妊婦一般健康診査の公費負担回数拡充、子どもの通院医療費拡充、合併前上越市での地域協議会設置

など、評価できる点があつた。しかし、不適切な会計処理以外にも見逃せない問題点がある」として、①経済対策本部が7月21日以降開かれず、全体の総括も行われていないこと、②学校給食の民間委託をさらにすすめ、人材派遣を含め、合計10校の調理現場に民間業者が入ったこと、③県下最高の保育料、④指定管理者への市の担当課のチェックが不十分であることの4点をあげました。

マスコミなどから注目された診療所特別会計、病院事業会計に関しては、「診療所特別会計で支出すべきところを病院事業会計から流用するという不適切な会計処理が行われたが、これは地方公営企業法に明らかに抵触し、認定できない」とのべました。



【唐辛子の天日干し】

10月の晴天は貴重です。晴れた日には大豆、小豆、唐辛子などを一斉に干す光景があちこちで見られます。